

## ◇「外秩父七峰縦走ハイキング」の思い出

大槻伸次

平成 11 年（21 年前）、東武鉄道が 4 月に主催する「外秩父七峰縦走ハイキング」の全コースを歩こうと職場の ARK 氏に誘いを受けたので参加した（私を含めて 6 人）。ところが、私自身が膝の激痛に悩まされ涙ぼろぼろの大変な山行だった思い出がある。

当行事に正式参加するには事前に東武鉄道に申し込む必要があるが、いきなり参加するには自信がないので、行事が行われる前日に全く同じコースを歩こうというのであった。そこで、ハイキングの内容を詳しく聞いたところ全行程を歩くと、マラソン競技と同じ 42.195 キロあるというのでビックリ仰天。そこで、とても無理だと思ったので参加を断ろうとすると ARK 氏曰く、山はあまり高くないし、万が一歩くのが困難になったら、コースの途中で何か所もリタイアできるポジション（下山したところにバス停がある）があるので全く心配ないよと説得され、そうであれば参加してみようかなとなった。以下、当時のメモ書きを元に、苦い山行の思い出を纏めてみました。

尚、「外秩父七峰縦走ハイキング」は現在でも盛大に実施されているようなので、興味のある方、足に自信のある方は一度挑戦してみたいかですか（2 月中旬頃申し込みがある）。21 年前と変化している所もあると思いますが、コースの中の風景や自然は素晴らしかったですよ。

平成 11 年（1999 年）4 月 17 日（土曜日）晴れ（正式行事の前日）

会社駐車場 am5 時発→埼玉県小川町駅前駐車場 6 時着・ハイキング出発…官の倉山（344m）…笠山（837m）…堂平山（875.8m）…剣が峰（876m）…大霧山（766.6m）→皇鈴山（579m）…登谷山（668m）…寄居駅着 21 時 05 分  
全行程踏破約 15 時間。東武東上線寄居駅→東武東上線小川町駅→会社駐車場  
全行程=マラソンコースと同じ 42.195km

“外秩父七峰（ななみね）縦走ハイキング”とは、毎年 4 月中旬、埼玉県の秩父で開催される公認のハイキング競技大会である。東武東上線小川町駅前から外秩父の山々を巡り東武東上線寄居駅までの 42.195 キロ（マラソンコースと同じ距離）の走破をめざす競技である。聞くところによると最近人気上昇中だそうで、本格的な登山を目指す人達の力試しのコースだともいわれている。大会は東武鉄道が主催し、東京方面からも東武東上線を使って多数の人達が参加するという。

自分たち三菱電機の仲間たち 6 人は、いきなりこの日の参加には自信がなかったのが大会の前日に大会当日と同じコースを歩こうとなった。

午前 6 時、埼玉県の小川町駅前の駐車場に乗り合わせてきた自家用車を停める。ここからスタートし、市街地をしばらく歩き第一峰である標高 350 メートルの管ノ倉山を目指す。小川町市街を暫らく歩くと、やがて菅の倉山の上り口に差し掛かる。

里山の木々はだいぶ芽吹いてきて新緑がまばゆいほど美しい。そんな緑の山道を行くと清々しい気分になり参加してよかったと納得した。足慣らしにほどよい高さの丘陵である。山越えして下ると広い車道に出る。車の風圧を背に、8.8 キロ先の和紙セ

ンターを目指して歩いた。

和紙センターでは朝食のため休憩をとる。ここまでは軽い足慣らし程度の道のりである。休憩の後、和紙センターから萩平、笠山へ続く登山道へ進路をとる。登山道は薄暗い杉林の中を横断し、しばらく行くと突然視界が開けて「萩平」の部落に入った。

萩平には民家が点在し、家々の庭には桃の花や水仙などの花が咲き乱れ、鶏の鳴き声もして中国の「桃源郷」とはこんなところなんだろうと思わせる静かな山里で、すごく気に入ってしまった。こんな静かな山里にいたく感激しながら更に行くといよいよ標高 837 メートルの笠山の登り口にとっかかる。

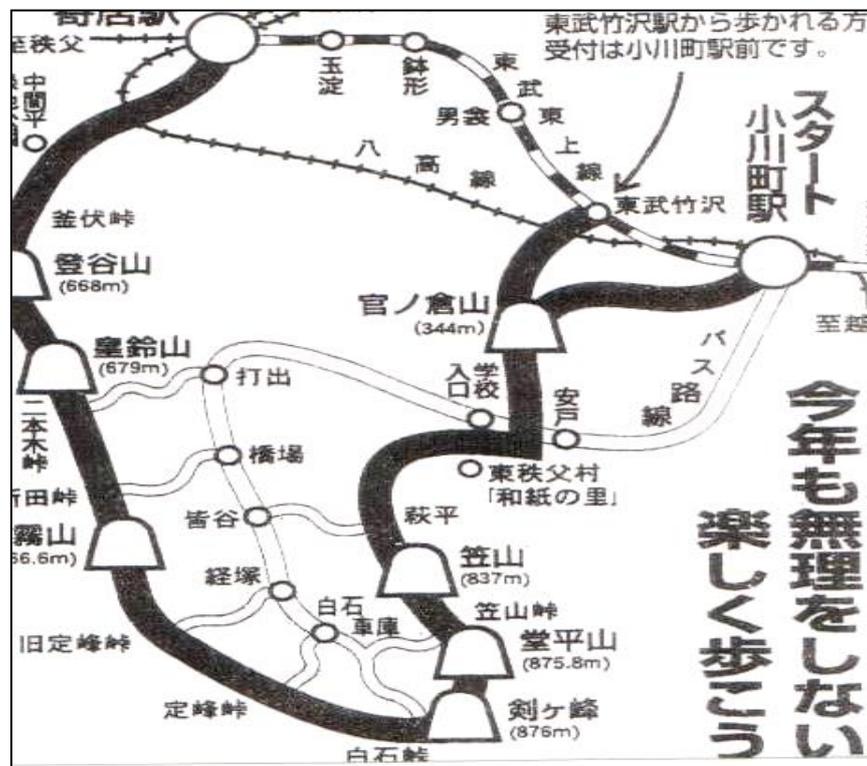
われら一行はまだまだ元気があるので、抜きつ抜かれつ歩くスピードをあげている。ここから笠山峠を経て天文台のある堂平山へ向かう。そして最高峰の 876 メートルの剣が峰へアタックである。剣が峰で今日のコースの半分ほど消化したことになり、ここで昼食をとることになった。空気は旨いし程よい疲れに昼食はあっという間に済んでしまった。ところが、食後の休憩時間中のこと、それまであまり意識してこなかった右膝の痛みをすこし感じた。というのは笠山からの下りをハッスルしすぎたためなのだろうか、或るいは古傷が再発し痛み出したのだろうかと色々考えてしまった。意識すればするほど益々傷んでくるようである。出かける前に、絶対無理はしないぞと自分自身にいいかかせてきたのであるが、やはり無理をしてしまったのかなと不安になった。そこで、自分自身の考えではこの辺で下山した方がみんなに迷惑かけないで安全かなと思ったが、団体行動なので簡単にリタイアしたいとも言えずじっと我慢することにした。そうではあるが、一応リーダーには伝えたほうが良いと思ってその症状を話したところ、全く気に留めてくれる様子もなかったのものでそれ以上は言わず、他の事に関心を向け気分を紛らわすよう心掛けた。

昼食タイムもあっという間に経過し、そろそろ出発するぞとリーダーの大きな号令。次の目標である白石峠、大霧山 (766.6m) を経て秩父高原牧場へ (出発点から 25 キロの地点) 向かう。さらに二本木峠から皇鈴山 (679m)、登谷山 (668m) を踏破したが、膝の痛みは相変わらずで、仲間の動向や風景などに気を配る余裕は無かった。ここまでの通算距離 30 キロメートル程で、残りは 12.2 キロである。この頃から膝の痛みはさら増してきたようで、泣きたいほどになっていた。ところが、ここまで来てしまったので今更リタイアもできないし、あと少しだからガンバレとリーダーに励まされる。(すっかりリーダーにのせられてしまったようだ) 仲間の AON さんも同じように疲れたとしきりに漏らし顔色がさえなかった。山は登りより下りが大変と聞いていたがまさにその通り、下り坂は体重が膝にもろにかかるため傷みが激しくなる。そこで、まともに歩けない状態になってきたのでリーダーに相談すると、持っていた包帯で痛むところにぎっちり巻いてテーピングしてくれた。包帯で間接が固定されたのでいくらか痛いのが良くなったようだが、それでもまともに足が前に出なかった。しかたなく後ろ下がり歩いてみたら、痛みが少なく感じたので後ろ下がりに一歩また一歩とそろそろと下った。まるで針の筵の上を歩いているようだった。そんな中、ふと我に返るといつしか日が暮れかけていたのである。そこで、リーダーが気づかってく

れてヘッドライトを点けるといいよといってくれ手持ちのライトを貸してくれた。今度は足元をしっかりと見ながら歩くことができたので大いに助かった。いつしか山道が終わって舗装道に出ると、寄居の街の灯りがかすかに見えてきた。ようやく寄居駅まで 10 キロを残すのみとなったようで、街の明かりが見えて少しは気持ちが楽になった。前後を歩いている仲間と声を掛け合い励ましあいながら必死に歩いた。

普段、山で鍛えているといっていた仲間の AON さん、KWT さんも元気がなく足を引きずる姿は戦場を去る敗残兵のようだった。ところが、ただ一人元気になっていたのはベテラン山男（リーダー）の ARK 氏だった。彼は、楽な登りだから早く歩こうとか、登りがきつからゆっくり歩こうでなく一定の歩幅で歩いていたが、さすが山男だなと感心した。ところが、我々はこんな状態だったので、途中の風景や寄居市街の夜景など楽しむ余裕など全く無くずっと泣きべそかきながらの行軍だった。

やっとのおもいで寄居の駅に着いたが、時計はすでに午後 9 時をまわっていた。今朝、小川町駅前を出発してから 15 時間以上経過していたのである。寄居駅に着いてからホームの階段が、まともに上がれず四つん這いになって這い上がった。ようやく待った電車に乗り揺られていたら、疲れと眠気で気持ち悪くなり、小川町駅に到着後、駅付近で打ち上げの食事をしようということだったが、誰一人として食べたいという気力がなくなっていた。皆リーダーの手前、疲れたと口には出さなかったが、食欲を失うほど疲れていたのである。その翌日、地区の市議会議員の選挙に動員されたが、まともに歩けないので、冷や汗の連続だった。その後も何日かは筋肉痛でまともに歩けない状態かつづいた。



■上記地図は「外秩父七峰縦走ハイキング」の全行程